



第2号

地域リハビリテーション交流セミナーを開催しました

第29回地域リハビリテーション交流セミナー ～高次脳機能障害のある方が地域で暮らすために～

2015. 12. 4
京都産業大学
むすびわざ館



本セミナーは、平成27年7月に京都市高次脳機能障害者支援センターがオープンした記念を兼ね「高次脳機能障害のある方が地域で暮らすために」と題して開催しました。

第一部では京都大学大学院医学研究科精神医学教授の村井俊哉氏に「交通事故や脳の病気の後遺症といわれる高次脳機能障害ってどんなの?」と題して御講演をいただき、第二部ではイラストレーターで「日々コウジ中」の著者でもある柴本礼氏に高次脳機能障害のある方の「家族目線から」お話をいただきました。また、第三部として、両氏と作業療法士である当センター相談課地域リハビリテーション推進係長大嶋孝司の3氏で「高次脳機能障害者が地域で安心して暮らすために何が必要か」をテーマに座談会を行いました。高次脳機能障害のある方の御家族や関係機関の方等、186名の参加があり、また、会場に併設したブースでは、高次脳機能障害のある市民を支援する事業所の活動の紹介や、電動車椅子、自助具の体験等、多くの方が関心深く展示に見入ったり、資料を手にとったりしておられました。

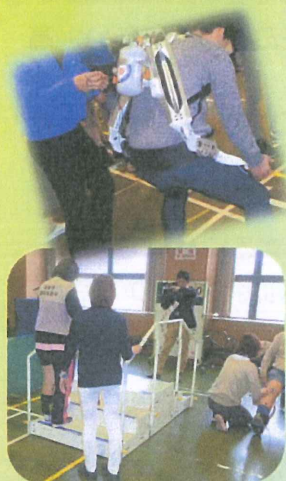
【アンケートから】

- ・専門家、当事者家族両方の話が聴けてよかった。当事者本人の話も聴いてみたいと思った。展示などもとても参考になった。
- ・話が具体的でわかりやすかった。必要な支援も明確になった。



第30回地域リハビリテーション交流セミナー ～介護ロボットに触れてみよう～

2016. 1. 27
当センター体育館



今、介護の現場で注目され、利用される機会が増えつつある、移乗介助の負担を軽減する介護ロボットを観て、触れて、体験していただくとともに、介助される側の体験もしていただいて障害のある方に対する理解と関心を深めていただく機会として開催しました。会場には開始時間前から多くの方にお越しいただき、2時間の開催時間内で112名の来場がありました。会場内は熱気に満ち、短い時間の中ではありましたが、介護ロボットを利用して実際にベッドへの移乗を体験していただいたり、装具や介護ベッド等様々な福祉用具も体験していただくことができました。

京都市地域リハビリテーション推進センター
〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地
電話 075 (823) 1650 (代表)
FAX 075 (842) 1545
Eメール rehabili@city.kyoto.lg.jp

☆第2回☆事業紹介 京都市高次脳機能障害者支援センター

地域ガエルの
おしごと拝見！

京都市高次脳機能障害者支援センター（京都市地域リハビリテーション推進センター1階 相談課）では、高次脳機能障害やその疑いのある京都市内にお住まいの方やそのご家族及び支援者の方を対象に、次の事業を行っています。

～～専門相談事業編～～

高次脳機能障害に関連した日常生活や社会生活上のお困りごとについて、支援コーディネーターが相談に応じます。支援コーディネーターとは、支援を必要とする高次脳機能障害のある方の社会復帰のための相談支援、地域の関係機関との調整を行います。当センターでは、専門的な内容の相談に対応できるように、保健師、看護師、作業療法士及び心理判定員の職種で構成しています。

地域ガエルのココが知りたい!!

●どんな相談があるの？

→ご本人やご家族及び支援者（障害福祉サービス事業所や医療機関等）の方からの相談があります。

相談内容を具体的に紹介すると、

- *（ご家族や支援者から）もうすぐ医療機関でのリハビリが終了しそうだけど、この後の生活が心配
- *（ご家族から）学校や仕事に戻れますか？
- *（ご本人から）仕事をしたいけど、どんな仕事が合うかどうか相談したい
- *（支援者から）高次脳機能障害のある利用者への支援について、他にいい工夫や方法はあるかな？等々です。

●時間は？

→専門相談受付時間は、

月曜日～金曜日（祝日・年末年始除く）

8：30～12：00及び13：00～16：00です。

専門相談ダイヤル

075-823-1658

ここに電話したら、
いいですね♪

各事業所、関係機関への
訪問支援や相談者との
同行訪問

高次脳機能障害
の確定診断

各種神経心理検査

等にも
取り組んでおります。

《相談支援の事例》

- 転倒事故をきっかけに仕事はかどらなくなり、病名もつかず困っていた。脳の損傷をみつけてもらい、高次脳機能障害の診断を受けた。原因がわかりスッキリした。
- 高次脳機能障害であることの病識がなく、周りにも言わず仕事をしては失敗ばかりしていた。相談に行ったことで、作業体験プログラムを通して障害特性の評価をしてもらい、高次脳機能障害であることの自覚を促され、就労継続支援A型事業所に通い始めることができた。気持ちが楽になった。
- 病院を退院した後、障害者支援施設で訓練を行い、自宅での生活や就労に向けた準備をすることができた。
- 相談したことで、作業体験プログラムを受けることができた。そのことにより、事業所利用の準備ができた。

～～研修事業編～～

高次脳機能障害の一般的な知識を学べる機会として「高次脳機能障害 入門講座」を1月～3月に月1回ペースで開催しています。また、支援者向け専門研修を平成28年2月1日に開催しました。

今後ともより一層高次脳機能障害の普及啓発や理解促進に努めてまいりますので、よろしくお願いします。

～～当事者・家族交流会編～～

高次脳機能障害は、症状の現れ方が様々で、ご本人だけでなくご家族も悩み戸惑います。同じような経験のあるご本人やご家族同士で、日頃の思いを話したり、対処方法を共有したりと交流をしてみませんか？

詳細については、専門相談ダイヤルまでお問い合わせください。

高次脳機能障害とは、交通事故や病気などで脳が損傷を受けた後、記憶力や注意力の低下、遂行機能（物事を段取りよく、計画的に行う力）の低下、行動と感情の変化、失語等の症状により、日常生活や社会生活に支障がある状態のことを指します。

身体的な障害やケガと違い、脳の損傷は外から見えないため、「見えない障害」とも言われています。

～作業体験プログラム編～

専門相談を通じ、主に就労に向けた支援の必要性があると思われた方に、模擬的な職場や作業所の環境でいくつかの作業を行うプログラムを実施しています。プログラムを通して、今後の生活で工夫できそうなことを提案し、今後の地域における支援につなげていくことを目的としています。

～プログラムの様子～

スケジュール	
9:30	はじまりのミーティング
9:45	作業前半
10:20	休憩
10:30	作業後半
11:00	清掃
11:15	ふり回り
11:30	終了

袋詰め、タオルたたみ



食器洗い



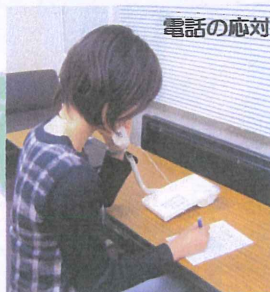
一緒に作業する人との作業スペースの取り方はどうかな？

作業能力（作業の丁寧さや正確さ、記憶力、計画性等）やコミュニケーション能力はどうか？



清掃作業

電話の応対



仕分け作業



記憶力を補う手段として、メモを活用したり、場に適したコミュニケーションの取り方を経験しましょう。



『地域に帰る（地域リハビリテーションの推進）』がモットーの、当センターのキャラクター「地域ガエル」です。よろしくね！

～利用者からの声～

体験してみて、最初は簡単なことをしてるんやと思っていたけど、参加してすぐに、将来仕事をするにあたって大事なことをやっているとしました。

作業では、最初にタイムカードを書いて、目標を確認します。僕は、タオルたたみ、パンフレット折り、袋詰め、掃除をやりました。最後は振り回りの時間があります。僕は、今までやってきた現場の仕事とは違う作業ができたのが良かったです。周りの人に気をつかいながら仕事をする経験ができて、将来絶対ためになることだと思いました。

このプログラムで、コミュニケーションの取り方などを学んだので、上司や同僚の人たちと一緒に仕事をするときにも、うまく使っていきたいです。

（20代 男性）

<地域ガエルのここが知りたい！>

●どんなひとが対象？

→どんな仕事や作業が良いのか考えたい
→ステップアップを図りたい
→どのような就労がいいか迷っている

就労支援を行う事業所の利用を検討したいなあ

一般の就労（障害者枠雇用）が合うかな？それとも障害福祉サービスの利用が合うかな？

※事業所利用中でも参加可能です。

●どんな作業をするの？

→袋詰めや仕分け、集計作業等です。参加される方の良いところをを活かしながら取り組める作業を取り入れています。

●時間は？

→毎週木曜日の午前 9:30～11:30 で、期間は約2か月（8回程度）です。

※事前予約制です。

●費用は？

→無料です。

ご利用等のお問合せは、

京都市高次脳機能障害者支援センターの専門相談ダイヤルへお願いいたします。



～担当スタッフから～

作業体験プログラムは、複数の専門職（作業療法士、保健師、看護師等）で行っていますので、より多くの視点で関われるのが特徴です。

開始してまだ半年程度ですが、実際に作業を行ってもらくと、発見や気づきがたくさんあり、専門相談や関係機関の支援者との情報共有が行いやすくなりました！少しずつ、利用者の中から卒業生が出てきています。

参加された方には、作業能力やコミュニケーション能力、今後、工夫できそうなこと等を記載した「まとめ」をお渡ししています。周囲のご家族や支援者の方にも一緒に見ていただき、振り返りにご活用ください。

電動車椅子講習会

催しのご報告

10月13日に京都府警察本部交通部交通企画課と電動車いす安全普及協会の協力のもと、電動車椅子講習会を開催しました。参加された12名の方は、府警本部交通安全教育センターの職員の方からの交通ルールについてのお話と、当センター職員からの電動車椅子の種類と基本操作についての説明を受けて、色々なタイプの電動車椅子を試乗走行し、警察の方や当センターの職員のアドバイスを受けながら、車とのすれ違い、スロープや曲がり角を右折する等の運転操作に取り組みました。今回、参加された多くの方が電動車椅子を操作するのが初めてで「実際に電動車椅子に乗ってみることができてよかった」「運転の仕方が難しかった」等の感想が寄せられました。

電動車椅子は基本的に歩行者と同じ右側を通行します。電動車椅子に乗った状態での視線の高さも約1メートル以下と低く、自動車からも死角に入りやすいため、屋外では十分な安全確認が不可欠だということもご理解いただけたのではないのでしょうか。

地域リハビリテーション推進研修(後期)

昨年10月から今年の1月にかけて座学13講座、実習20講座を開催し、生活支援員やホームヘルパー、介護職員の方を中心に様々な関連職種の方に受講いただきました。実習はスライディングボードや車椅子等を使った少人数での「かゆいところに手が届く」内容で、「質問しやすく疑問点が解決できた」等と好評でした。また、座学でも失語症やフットケア、腰痛予防などすぐに実務に活かせる内容のものであり、改めて日ごろの支援内容を見直すきっかけになった方もおられたようです。

受講者の声

身体介助だけでなく、車椅子の使い方や特徴も教えてもらったことが大きな収穫だった。明日から活かしたい。
(実習「からだの動かし方研修」)

実際に色々な自助具を手に取り、ちょっとした工夫で使いやすくなることが実感できた。作る体験がよかった。(実習「うまい自助具の活用で!」)

失語症の特徴や関わり方の工夫、気をつける点など実際の演習を通して分かりやすかった。(座学「失語症って何?その理解と接し方」)

高次脳機能障害 入門講座

これからの予定

耳と補聴器の相談会

日時【第2回】「注意障害・記憶障害・遂行機能障害について」
平成28年2月26日(金) 10時～11時
【第3回】「社会的行動障害について」
平成28年3月18日(金) 10時～11時
場所 当センター1階 研修室
費用 無料
申込方法 各開催日の2日前までに電話かFAXにてお申込みください。(先着40名)

日時 平成28年3月3日(金) 13時30分～16時
場所 京都市聴覚言語障害センター
(中京区西ノ京東中合町2番地)

費用 無料
申込方法 往復はがきの「往信裏面」に御相談者の住所・氏名・電話番号を、「返信表面」に申込みされた方の住所・氏名を御記入のうえ、2月1日～2月20日(必着)に地域リハビリテーション推進センター相談課「耳と補聴器の相談会」係まで郵送してください。

からだの動きに障害のある方の 「春の体力測定会」

日時 平成28年3月8日(金)・3月15日(金)
各日とも13時30分～15時30分
場所 当センター3階 体育館
対象者 からだの動きに障害のある京都市民
(肢体の身体障害者手帳をお持ちの方)
費用 無料
申込方法 各開催日の前日までに電話にてお申込みください。(各日とも先着20名)

編集後記

「リハ*エール」第2号では今年度から新たに取組を開始した「高次脳機能障害」の支援について特集をしました。見た目にはわからないこの障害に対し、少しずつでも御本人、御家族がより快適な生活を過ごせるよう、支援センターの職員は日々奮闘しています。

様々な職種がいるからこそ、できることがあります。ぜひ御相談ください。